

## 弱視のスクリーニング検査はじめました



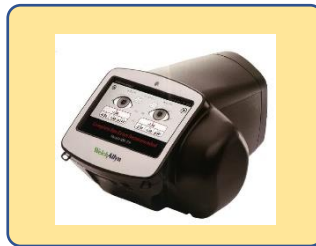
生まれたばかりの赤ちゃんは、まだはっきりと物を見ることができません。  
6歳ごろによやく成人並みの視力（1.0）に達するのです。  
視覚の発達には感受性期があり、この時期に正常に脳の視覚領域が発達しなければ、  
生涯弱視（メガネやコンタクトをしても視力が出ないこと）になってしまいます。  
子どもの弱視の頻度は意外と高く、2～3%の確率で起こっているといわれています。

こんな様子ありませんか？

- \*視線が合わない
- \*顔を回して横目でものを見る
- \*片目を隠すと嫌がる
- \*明るい戸外で片目をつぶる
- \*目の動きが気になる
- \*上目づかいで見る
- \*ものを見る時、顔を傾ける
- \*ものを見る時、顔をしかめたり、目を細めたりする

上記のような症状がみられるときは屈折検査をおすすめします。子どもの屈折検査を簡単に行うことができる器械が【スポットビジョンスクリーナー】です。

カメラで写真を撮るような感じで10秒間  
じっとしているだけで検査終了です。



解析した結果はその場でプリントアウト出来、**近視・遠視・乱視・斜視**などが分かります。  
(視力は測定出来ません)



ご希望の方はサンクリニック小児科までお問合せください。

TEL 045-366-6821